



■卷頭言■

ふゆを思う

図書館長 味園 佳奈 (幼児教育)

「ふゆ」というのは「英雄」のことです。

今回は「豊田英雄」先生をご紹介します。

豊田英雄（1845–1941）は、日本の幼児教育のはじまりを支えた女性教育者です。茨城県に生まれ、若いころから教育に関心をもち、東京女子師範学校附属幼稚園（現お茶の水女子大学附属幼稚園）で保姆（現在の保育者）第一号となったりました。ドイツ人の松野クララから通訳を介して幼児教育の伝習を近藤浜とともに受け、「なきものは作る」と遊戯や唱歌を創作するなど試行錯誤の連続の日々だったそうです。



英雄は日本で最初期の幼児教育の実践を経験したのち、明治12年3月11日に鹿児島に赴任しました。日本で2番目の鹿児島女子師範学校附属幼稚園（現鹿児島大学教育学部附属幼稚園）の創設のため東京より鹿児島に招へいされたのです。英雄が35歳のことです。英雄は西郷隆盛が尊敬した藤田東湖の姪ということでとても歓迎され、「女神様」などと呼ばれ大事にされました。

当時の鹿児島は西南戦争の直後で教育制度が混乱しており、学校や教員の整備が急務とされていた時代です。鹿児島での活動は、幼児教育の基礎づくりそのものでした。幼稚園という制度自体がまだ一般的ではなく、英雄は自身の実践経験をもとに園舎の設計・建設・開園と子どもの保育、保姆養成に当たりました。幼児の発達の段階に合わせた工夫まで一から取り組んだそうです。

明治12年4月、鹿児島女子師範学校附属幼稚園は、幼児39名（6月に70名追加募集）、保姆見習い生10名で開園します。開園当初、保姆は英雄一人で、英雄が子どもの保育と保姆見習い生の指導を兼任しました。保育では、フレーベル教育の理念をもとに、子どもが遊びを通して学ぶことを重視し、歌や手遊び、

工作などを通じて感性と協調性を育てる教育を実践しました。保姆見習い生への指導では、幼児教育の理念や保姆としての心構えを教えました。明治14年からは保姆7名の体制となります。

英雄は自身の経験をまとめ、『保育の栄』という保育の手引書を作り、保育の実践方法を記録として残しています。東京と鹿児島の女子師範学校附属幼稚園で英雄に出会い、英雄から学んだ女性たちは、保姆としての使命感をもち、日本の保育・教育に大きく貢献しています。

英雄は鹿児島に赴任当初は半年程度の鹿児島出張でしたが、二度の延長を経て、明治13年6月22日に鹿児島港を出港します。英雄が鹿児島を離れる際に残された言葉があります。

「一つ、園庭を植栽すべし、
一つ、全州儀もしくは全州図を配置すべし」

英雄の教えは今も多くの園の保育・教育に引き継がれています。



参考文献

- 「日本初の幼稚園保姆 一豊田英雄の教育活動一」武智ゆり、『日本女子大学紀要』第59巻、2009年
- 「豊田英雄と草創期の幼稚園教育に関する研究」前村晃、『佐賀大学教育学部紀要』2008年
- 「豊田英雄と草創期の幼稚園教育」前村晃、建帛社、2010年
- ※「豊田英雄」写真は鹿児島大学教育学部附属幼稚園所蔵

学生図書委員の活動報告

図書委員会

各学科・専攻から1名ずつ選出された図書委員の中から3名の役員を選出し、委員長が中心となって図書委員会を運営します。

1年間の図書委員の活動を委員会で決定し、展示活動や館内整理などを行います。

- ・図書館内整理作業
- ・テーマ展示
- ・図書館広報活動
- ・館内清掃 etc.



役員活動報告

委員長
英語科2年
H. K.

私はこの2年間、図書委員として活動してまいりました。掃除の時間はもちろん、少しの空き時間にも図書館へ足を運び、課題の参考文献を探したり、辛い時にそっと支えてくれる本たちに助けられたりしてきました。皆さんも、そんな“心の支え”となる一冊、いつもそばにいてくれる本の存在がきっとここでなら見つかるはず！本が大好きな人も、本を読むのが少し苦手な人も、きっと“求めていた一冊”に出会える---そんな素敵なお図書館が皆さんをお待ちしています。「自分がどんな本を読みたいかわからない」という方は、ぜひ図書館に入ってすぐ左手にあるポップをご覧ください。図書委員が季節やテーマに合わせて厳選したおすすめの本を紹介しています。どんな方でも楽しめる、鹿児島純心女子短期大学が誇る図書館へ、ぜひ足を運んでみてください

副委員長
こども学専攻
2年
M. M.

私は図書委員として活動し、図書館が学生の学びや心の支えとなる場所であるということを改めて感じました。棚の整理や展示制作を通して、利用者が本を手に取りやすいように並べたりすることで環境を整える大切さを学びました。また、入口近くの特集コーナーでは図書委員で分担して、季節やテーマに合わせた本を図書委員がおすすめとして選んでいます。そのため新しい本との出会いがたくさんあります。そして、私の好きなコーナーは絵本コーナーです。絵本は子ども向けのものだけでなく、大人にとっても新たな気づきや癒し、懐かしさを与えてくれます。保育や教育を学ぶ私にとって、表現方法や言葉選びを学べる貴重な教材でもあります。他にも学習コーナーなどがあり、レポート作成や就活などで役立つ資料などもたくさんあります。なので、ぜひ本や資料をたくさん借りて読んでみてください。

書記
生活学専攻
1年
T. I.

幼い頃から、本に囲まれた空間が心地よくて大好きでした。短大でも本と関わりたいと思い、図書委員の書記に立候補しました。活動を通して特に良かったのは、これまで読んだことのなかったジャンルの本と出会えたことです。本の整理中に「この本、おもしろそう！」と手に取るたび、読みたい本がどんどん増えていきます。図書館では、そんな思いがけない出会いがたくさんあります。さらに、読みたい本をリクエストすることもできるので、自分の興味のある本を図書館に増やすこともできます。私たち図書委員も、「読んでみたい」と思ってもらえるよう、POPや展示づくりに工夫を重ねています。ぜひ純短の図書館で、心に残る一冊と出会ってみてくださいね。



展示活動

テーマ展示

学生図書委員8名が2班に分かれ、5ヵ月ごとの工夫をこらしたテーマ展示を行っています。テーマにそった書籍を全員で2冊ずつ選び、POPを付けてアピールをしています。図書館入口に展示されている人気コーナーです。

「キュンキュン」しちゃう本 (5-9月の展示)



クリスマス展示

イエス・キリストの降臨を待ち望む「待降節」にあわせ飾りつけを行いました。



ミニ展示 コーナー

図書館入り口でも
様々なテーマ展示を
行っています。



「アンパンマンの生みの親」
やなせたかしさんを
テーマにした展示



令和7年は昭和100年の年。
昭和、平成、令和の時代
をテーマにした展示



絶景集やご当地グルメなど
旅行に行きたくなる本を
テーマにした展示

令和7年の図書館

4月

- ・オリエンテーション
- ・第1回学生図書委員会



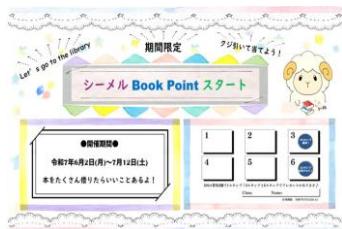
5月

- ・テーマ展示
- ・図書館ツアー(Deep ver.)



6月

- ・シーメル Book point
- ・図書委員によるテーマ展示



7月

- ・LibraryNews発行
- ・前期多読賞決定



10月

- ・シーメル Book point



12月

- ・クリスマスクイズ
- ・図書委員によるテーマ展示



パラビブリオ的生き方

英語科長 教授 永正 理恵子（言語学）

図書館だよりに記事を書くのは、紫原中学校で図書委員長を務めて以来である。お世辞にも読書家とは言えない私だが、いつも本の周辺をうろうろしているのは確かである。小説を1冊読み上げるというタイプではなく、どちらかというと授業の準備や調べ物をするのに、ことばや文化についての本を何冊も借りるというのが常である。また、言語学の推しの先生のご著書とか新しい切り口の本を見つけて手にして、わくわくする感じも好きである。

昔はというと、小学生のとき、シャーロック・ホームズにハマった。全巻を所有している男子からクラスのみんながこぞって借りていた。借りている期間もまちまちだったし、話し合ったわけでもないが、皆が自然と融通し合っていて、全巻読むことができた。手渡しでのやりとり、クラスで同じエンターテイメントを楽しんでいる感じがなかなか素敵だった。中学生のときは、学校帰りに近くの小さい本屋さんによく立ち寄っていた。そこには、SFや漫画、時には海外作家の作品など、未知の世界が広がっていて、冒險を始める期待感があった。当時、手に入れたスヌーピーの英和対訳の漫画は、こんがりトーストのような紙の色になってしまったが、今でも英語を教えるときの相棒になってくれている。

大人になった現在、足が向かうのは、純短の図書館。図書館は癒しの場であり寄り道を楽しむ場である。この本を借りようと狙いを定めていくのだが、ついつい他の本も借りてしまう。最近も『世界の英語』の本が目当てだったのに、たまたま隣にあった『英語で歌おう!スタンダードジャズ』なんて本も手に取って借りてしまった（一人でこっそり歌ったりするのか...）。推薦図書を確認しに行っただけだったのに、新刊書の棚で微笑んでいる本たちに惹かれて借りてしまったりする（司書の方々の選書が素晴らしい！）。結果的に、複数のジャンルの異なる本に囲まれる生活になっている。My Libraryで

履歴を辿ってみると、くらしの歳時記、切り絵、手作り文房具、武士道、クラシック音楽、オノマトペ、ドイツ詩集、紅茶、鹿児島方言となかなか賑やかである。こういう本たちが身の回りにいてくれることでなんだか安心で豊かな気分になれる。

最近は多忙で行けていないが、昨年までは「朗読カフェ」というイベントに参加していた。月替りで様々なカフェに集まり、自分の好きな本の一節を5分程度朗読するというものである。あるとき、読む本が決まらなくて、図書館に足を運んで司書の先生に相談したところ、ある英語の絵本を持ってきてくださった。確かに朗読会では絵本を読まれる方が多いので、普段、絵本に疎い私もチャレンジしてみることにした。すると、当日、すごいことが起きた。別な方が全く同じ絵本の日本語版を朗読されたのである。会の後、その方と話したり両方の本を手にして記念撮影したりとその奇跡を喜んだ。

今も昔も、本を中心に波紋のように広がっていく世界（serendipity）がまたとなく楽しい。いつか、1冊の本に没頭するぐらい優雅な暮らしをしてみたいものだが、しばらくは本の周辺をうろうろする「パラビブリオ」的生活を続けるのだろうなあと思っている。ちなみに「パラビブリオ」は、ギリシャ語由来の接辞を思いつきでくっつけた語で、これも図書館で手にして大好きになった『英語解剖図鑑』のおかげかもしれない。推薦図書として棚に置いてもらったこの本が、最近、貸し出し中の札に替わっていたのを見て、思わず微笑んでしまった。あの本のよさを誰かが味わってくれているのかなあと想像するだけでちょっと楽しい。本を巡る世界は今日も広がっている。



年間貸出冊数



令和6年度の総貸出冊数は2,595冊でした。

1人当たりの貸出冊数9.8冊と昨年を下回りましたが、全国平均は約5.3冊ですのでかなり高い数字となりました。

授業や課題などの活用、または一息ついて休みたくなったらぜひ、図書館をご利用ください。

●学科・コース別●

1位 こども学専攻2年	21.2冊
2位 英語科1年	20.3冊
3位 こども学専攻1年	12.6冊
4位 食物栄養専攻2年	7.8冊
5位 英語科2年	5.0冊

分類別貸出順位は以下の通りです。

1位 芸術 2位 言語 3位 文学

図書購入依頼・相互利用

令和6年度の図書購入依頼（リクエスト）、他大学への貸借・文献複写依頼・受付の件数は以下の通りです。来年度も引き続きご利用ください。

- 図書購入依頼・・・・11件（学生リクエスト）
 - 他大学図書貸借依頼・・35件（内訳:学外1件/学園内34件）
 - 他大学図書貸借受付・・166件（内訳:学外8件/学園内158件）
- （集計:2024年4月1日～2025年3月31日）

ボランティア
募集



沢山申し込んでね～

短大図書館でボランティアをしてくれる方を募集しています。

参加希望の方は右のQRコードよりお申込み頂くか、図書館の職員へお声がけください。

- ・活動日：それぞれの空き時間を利用（集合が必要な際は、日程調整にご協力ください）
 - ・募集対象：本学学生および教職員
 - ・活動内容：図書館イベントのお手伝い、広報協力、ちょっとした小物づくり etc...
- ※活動内容は、空き時間ややりたいことなどを考慮して考えていく予定です。

本が好きな方、イベントを企画してみたい方、図書館の仕事に興味がある方等大歓迎！

質問がある方はお気軽に図書館職員へお尋ねください。



卒業後も利用できます

卒業後も在学時と同じように
図書館を利用できます

※学校行事等で在学生以外はお断りしている期間もあります。
来館前にご連絡をお願いいたします。

編集後記

令和7年1月に、本学の閉学が発表されました。全員の学校生活が充実したものになるよう願いながら、ブックポイントやクリスマスクイズ、展示による本の紹介など、最後まで沢山開催していくので、是非お立ち寄りください。

今年も、「図書館だより」第53号を無事に発行することができました。原稿をご寄稿くださいました先生方並びに図書委員の皆様に心より感謝申し上げます。